

文化学科 5月6月の動向

笹山原遺跡 No.16 発掘調査実習終了

2012年5月19日から30日まで会津若松市湊町大字赤井字笹山原に所在する笹山原遺跡 No.16の12回目の発掘調査は無事終了しました。発掘調査には「考古学Ⅱ」受講の文化学科2年生、「日本の考古学」受講の専攻科1年生、「考古学演習」受講の専攻科2年生が参加し、学外からは郡山女子大学附属高等学校地歴コース選択生徒、会津ザベリオ学園考古学研究部、学報石川高校考古学研究部が参加しました。調査は福島県立博物館の藤原妃敏先生、長尾修先生の指導と、東北大学考古学研究室、福島大学考古学研究室、早稲田大学考古学研究室の学生・院生・教員の協力の下で行なわれました。また、調査中は福島県立博物館、会津若松市教育印会、山形県埋蔵文化財センター、蔵王町教育印会の方々から多くの助言を受けることができました。さらに、調査中は本学教職員の方々、卒業生が励ましに現地を訪れ、多くの差し入れを頂いた。記して感謝します。今年の調査は前年の調査区の北側に15m×8mの発掘区を設定しました。昨年の発掘区にやや重複していましたが、掘り残しをなくすためにまずはOK。今年の調査の目玉を通して紹介しましょう。

<表土直下から謎の穴ぼこ出現>

表土直下から直径約120cm、深さ1m弱の垂直に掘り下げられた穴がふたつ出現しました。昨年は3基確認。その整然と掘られた穴は土層観察からごく最近のものと判断されました。地権者の方に聞いたが記憶にないということです。ということは昭和22年以前のもの。穴と穴の間隔が約12m。昨年発掘した穴の底からは樹皮のようなものを確認。穴は埋め戻されています。そこから仮説。この穴は街道並木の植栽のための穴ではないか。笹山原を抜ける道路は江戸時代にも使われていました。幕末には官軍が会津白虎隊と戦闘をするために通過した道路でもあったのです。主要街道ではなかったのですが、笹山集落と二本松街道を結ぶ枝線として用いられていました。その街道並木を植栽した痕跡ではないか。というのが、會田准教授の仮説。それに対してプロの園芸家のN氏は「植栽の穴にしてはきれいすぎる。根が広がっていない。樹木の根をまとめるのに縄を用いるが、樹皮を用いることはない。」と、會田仮説に批判的コメント。よし、では例年また同じものを掘って、見てもらおう。

<2b層：東はさっぱり、西はゴロゴロ>

今回、平安時代の遺物は全く出土せず。縄文土器が出土。それも2b層から多数の縄文前期初頭の土器と大量の礫が出土。2b層からはすべて遺物の出土位置を記録。礫の実測には手間取りました。しかし、そこで大活躍したのが「遺跡管理システム」。トータルステーションとパソコンを組み合わせたスグレモノ。シン技術コンサルのSさんの指導で、本学専攻科生だけで実測できるようになりました。エライ。

< 3層上面で出てきたものは墓穴？それとも・・・ >

3層上面から集石遺構を検出。集石の下には墓壙があるのではと、會田は主張。福島県最古の集石墓ではないかと、思わず……。しかし、事はそう簡単ではない。福島県立博物館のMさんをはじめとする縄文専門家チームが来跡。ああでもない、こうでもない議論。では、四分の一だけ掘ってみよう。もしお墓ならば、下に墓穴があるはず。掘ってみたところ、下は石ばかり。遺体を納める空間がない。ということで、會田は白旗。これは集石遺構でした。

< 本命の旧石器はでたのかな？ >

3層から少しずつ石器が出土。4a・b層からも出土。しかし、昨年のような大量出土ではない。発掘区の東側に、昨年の分布の残りという感じで広がった。水洗が途中なので内容ははっきりしないが、凝灰質頁岩だけでなく、凝灰岩や珪質頁岩も使われている。どうやら笹山原の旧石器もこれで打ち止めか？な一なんて悲観的な発言もちらほら。でも、それなりに成果はありました。今年も「東北日本の旧石器文化を語る会」で発表するぞ!!!



発掘開始



謎の穴ぼこ



発掘します



トータルステーションと私たち



石器でした



礫だらけ



結局集石遺構（縄文前期）



旧石器出てます



発掘終了